

寸言

東京計器株式会社
執行役員
電子システムカンパニー長
小野 正己



はかるうつわ

東京計器 電子システムカンパニー長の小野でございます。この度は「航空と宇宙」への寄稿の機会を賜り、誠にありがとうございます。

当社は1896（明治29）年に創業した会社で来年130周年を迎えます。創業当初の社名は「和田計器製作所」で、創業者が自身の名前と、measuring instrumentsという英語から造語した「計器」という言葉を組み合わせて社名に採用しました。この社名に使われた「計器」が広く普及し一般名称となっております。

創業最初の仕事は軍艦に使用されていた圧力計の国産化でした。その後も回転計や磁気羅針儀の生産など、計器の国産化により工業発展を目指しておりました。

航空計器についても1917（大正6）年に航空機用磁気羅針儀の試作に着手しており、我が国の航空機産業の草創期より深く関与しております。

読者の皆さまは航空宇宙工業会の会員でいらっしゃることから、「計器」と聞くと操縦席にあるこの様な指示計器をイメージされる方が多いかと思います。しかし、現在では多くの航空計器がセンサと表示部分（または処理装置）に分かれており、従来のイメージとは異なる構成になっていることは、ご承知の通りでございます。当社の近年の製品もADC（対気諸元計算装置）、AHRS（姿勢方位基準装置）、加速度計など、いずれもセンサとよべる製品が中心となっております。

安全保障分野では、無人プラットフォーム

の活用や省人化・省力化が進められており、精度の高いセンサの需要は今後ますます高まると考えております。

このため、研究開発においてもジャイロ스코プ、マイクロ波製品、空圧センサ、加速度計など、センサ技術を中心に取り組んでおります。

また、自社技術に加え、スタートアップ企業や大学の方々と連携を増やし、様々な製品を早く提供できるように活動しております。本会にも加入されておりますメトロウエザー様とは、同社の独自技術を用いたドップラライダーの量産支援や、安全保障分野での活用に向けた協業を進めております。

こうした取り組みをご紹介しますと、センサが新しく計器は古臭いイメージに取られるかもしれません。しかし、辞書で「計器」を調べると、「物理量を測定するもの」とあります。つまり狭義では指示計器を指しますが、広義ではセンサを含む物理量を測る全ての装置が「計器」と言えます。当社の社名は和田計器製作所に始まり東京計器、トキメックを経て2008年から再び東京計器に戻しております。社名復帰の背景には、「はかることで社会に貢献する」という創業の精神を今後も継承していくという強い意志があったものと考えます。

当社は、来年130周年を迎えるにあたり、先人の志を受け継ぎ「計器（はかるうつわ）」への取り組みを変わず続けてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。